



題字・松尾金蔵書

発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒101東京都千代田区神田須田町

1-2-1カルフル神田5F

(株)フソウキャリアサービス内

FAX. 5294-6223



21世紀へ

新たな未来のために



東京修猷会新会長

野上三男(昭和20年卒)

明けまして、おめでとうございます。
昨年六月、有吉前会長から東京修猷会会長をお引継ぎして、初めての新年を迎えました。

本年も、よろしく願っています。

希望をもって迎えたこの年は、どうやら極めて多難な年になりそうです。

政治も経済も混沌として、明確な構図を描くことが出来ず、その混沌の中で、人の心も落着きを失いがちです。

私たちが修猷館で培った自由闊達で、しかも毅然とした精神が、今こそ必要とされているように思います。

そんな思いを込めて、新年にあたり「暁への挨拶」と題する古い時代のインドの劇詩人カリダーサの詩を皆さんにお贈りします。



東京修猷会前会長

有吉新吾(昭和4年卒)

つなぎのつもりで会長を引受けましたが、いつの間にか6年も勤めてしまいました。在任中は何のお役にも立ちませんでした。皆さんのご協力により東京修猷会が大変活性化し、経営も順調になって参りましたことを心から嬉しく思っております。また在任中は各界、各層に亘る館友の方々と接触をもつことが出来、啓発されることの多かったことを感謝いたしております。この度立派な新会長を迎えまして、東京修猷会が益々隆昌に向かいますことを祈っております。

今日の日を心して見よ。

これぞ生、生のうちなるまことの生。

このたまゆらの時に

なんじが存在の真理と

現実のすべては含まれたり。

生成のよろこび

行為の栄光 美の莊嚴。

昨日ははや一つの夢にすぎず

明日はまたはかるなき幻ならん。

さあ、今日の日をまたく生きなば。

昨日はなべて幸福の夢となり

明日はみな希望の幻となるべし。

されば、今日の日を心して見よ！

これぞわが暁への挨拶なり。

この詩は、太平洋戦争直後の混沌と荒廃の時期に、竹山道雄さんがその著「手帖」の中で、深い感銘とともに紹介されたものです。

ご記憶の方もおられるでしょう。

いつの時代にも、どんな状況の中でも、人はこうして自分を上げ

まし、明日に向かって生きて来ました。

今年も、東京修猷会が、「何の利害関係もなく、人生の一時期を

同じ校舎で学んだということと結ばれた安心感」を土台に、更に発

展して行くことを切に願っております。

ところで戦後50数年にして最近漸く『父権の復活』が唱えられはじめておりますことは大変結構なことだと思っております。『父権』とは『家族を統合し、理念を掲げ、文化を伝え、社会のルールを教える父の役割』と或る人は定義しておりますが、要するに『父権の復活』とは、父親、母親のいずれを問わず、家族の中心に権威として立つものがいて、家族、社会、国家という共同体に於ける倫理規範や、民族の自覚につながる伝統文化の評価を幼い子供達に教え込むことの必要を訴えているわけでありませう。

わが修猷館は明治18年、玄洋社の前身である向陽社の学塾向陽義塾と黒田家によって温存された藩校修猷館の後身藤雲館とが合併して英語専修修猷館として出発したのであります。この英語専修修猷館は、理科系科目は凡て英語の原書を用いたという極めて開明的な学校でありましたが同時に多分にナショナルな伝統を温存した学校でありました。この学風は今もわが修猷館に温存されていると思います。私は日本の幼い子供達が背骨のある、気概をもった立派な日本国民に育つてゆくよう、『父権の復活』について館友の皆さん方の理解と協力を期待して已みません。

館友の皆さん方の益々の御健勝を祈ります。

剣道



11月半ば、慶応義塾大学日吉校舎を訪れた。い
ちよう並木も、葉を落しはじめ、雨にぬれた舗
道をおおっていた。
慶大の剣道場に入ると、入しぶりに運動部の臭
いを感じることができた。宮崎誠治君(24)、理
工学部機械工学の専攻・剣道四段。慶大剣道部で
は、四年生として大将をつとめる「猛者」である。
しかし、がっちりとした体格ではあるが、はつき
りいって目もとすずしい美男子である。平成8年
度の東京修猷会総会にも、千田力君とともに型を
みせてくれたことを覚えておられる方もいるだろ
う。以下、宮崎君へのインタビューである。

—今年度の慶大剣道部の成績は？
—関東学生選手権で優勝。全国学生選手権でもベ
スト4に勝ち残り、また東西学生対抗戦にも出場
するなど、個人的にも、大将として充実した一年
でした。
—剣道を始めたきっかけは？
—室見小のとき、カッパよさにひかれて始めまし
た。高取中・修猷とつづき、慶大は重松先輩がお
られるということが入りました。目標をもってや
ってきたことが、大学四年になって、この好結果
を生んだと思います。慶大は試験が難しいので、
無名校だが素質のある選手に受験をすすめること
などにも力を入れています。

—就職は？
—東京海上に決めました。機械工学です。コン
ピュータ関係の仕事をしたと思って、決めま
した。
—以上、短い時間であったが、さわやかに答えて
いただいた。修猷館剣道部は、過日、一〇〇周年
を迎えた。東京でも、平成8年度の総会を機に、
集まりが行われたという。

宮崎君のような若者が、「文武両道」の新しい
型を示し、スポーツの面で、活躍してくれている
ことは、後輩達の大きな励みになるだろう。
この日も、インタビュー後、機械工学の研究室
へ直行した。今後も「文武」両面での宮崎君の活
躍を祈りたい。

東京で活躍する若者たち

東京に長くいると、地元での運動部関係の情報はなかなか
入りにくい。しかしテレビなどで、スポーツ中継の中に、修
猷館出身の選手が出ると、とても嬉しいものだ。今回は、一
部インタビューを交えて、東京で活躍している若者達を紹介
する。

ラグビー

ラグビー部



慶明戦(96.11.4)
左が阿久根君

修猷で伝統ある球技のひとつは、ラグビー部で
あることに誰しも異存がないだろう。東京にいる
同窓生も、ラグビー早慶戦のメンバーの中に、修
猷館出身を目にするのがあったと思う。県代表
になれないまでも、素質のある選手達が、大学で
その力を充分に発揮しているのだから。従来早稲
田大学では、森田君、前田君など、バックスを中
心に活躍していた。(早大は、福岡の高校出身者
が実に多い。)

いま、慶応義塾大学にも逸材がいる。現在慶大
環境情報学部二年の阿久根潤君である。フオー
ドで身長192cm、体重100kgの阿久根君は、
小学校五年から、ラグビーをはじめ高校三年の時
には、高校日本代表に選ばれイングランドに遠征
している。このところ、慶大ラグビー部は、低迷
していたようだが、昨年あたりから、勉学にも優
れ、ラグビーに力のある高校生が独自の推薦制に
よって入学してきているようだ。その一人が、阿
久根君だ。これは、自己推薦制度といわれ、高校
二年までの成績が五満点の四以上、論文、面接
等をへて、合格となる制度だ。慶大はまさに、
「文武両道」の好素材の選手を集めているようだ。
昨年は、早大に勝ち、今年は、明治に善戦(33
対31)。そして、早大には、42対12、しかも、ト
ライを許さず快勝した。残念ながら、全体の成績
は、早大、東大の二勝のみで、大学選手権には、
出場できなかった。阿久根君は、チームの強化と
チームに不可欠なメンバーになることが今の目標
だと話してくれた。



この他、慶大には、坂本宗之祐君(四年)、川
尻圭介君(一年)がおり、またレギュラー選手と
しては同じ関東大学対抗戦グループの東大に、フ
ォワードの中心選手として、片桐徹君(三年)が
おり、日体大戦には、善戦した(75対31)。
来年も、ぜひ、慶大、東大戦あるいは、早慶戦
で、同窓生同士の戦いを見たいものである。

まだまだ、夏も真っ盛りとい
う8月16日に、修猷バレー部創
設70周年の記念式典が福岡で開
催された。参加者は、地元福岡
のほか、東京、大阪、鹿児島な
ど全国から駆けつけ、参加総数
も、現役・OB合わせて、20
0名近い盛況となった。東京か
らは高村健次郎(昭13卒)氏を
筆頭に、ジャニー岩橋(昭20卒)



前列左から2人目葉室氏、
3人目橋崎会長

氏、吉見健三(昭28卒)氏など
十数名が参加しました。
第一部は、午後〇時半から、
母校の体育館を会場にOB戦が
行われ、若手からシルバード世
代まで和気あいあいとした中に
往年の名プレーヤーの素晴らしい
プレーなど、真夏の暑さに負
けないプレーが随所に見られま
した。東京から参加のメンバー
は東京修猷のマークの入った揃
いのユニフォームで大いに場を
盛り上げました。
現在、現役メンバーは男子部、
女子部あわせて50名を超えてい
うことです。

「水泳部」
「星泳会」70年
修猷館に水泳部らしき形が誕
生したのは、大正時代の終
り頃、数名の水泳愛好家が、ま
だプールもない頃、今川橋下の
潮溜りにて泳ぎ始めた頃に由来
するとされ、昭和3年に初のプ
ールが完成し、名実共に水泳部
として活動した時をもって「星
泳会」の創部と現在では認識して
いる。初代星泳会会長高木順夫
先輩の熱心な練習指導の下、

数年のうちに「水泳修猷」の名
が全国に響き渡る事となる。
昭和6年、8年頃は当館の先
輩曰く「全九州連合軍より強い
修猷」とまで言わしめる程の活
躍があった。
そして昭和11年の、現役当時
より全国各大会に於いて優勝、
新記録を樹立していた葉室誠夫
先輩がベルリンオリンピック2
00m平泳ぎにて2分42秒5の
タイムでみごと優勝、金メダル
を勝ち得た事は、我が水泳部の
みならず修猷館の歴史の中でも
特筆すべき栄光として今も語り
継がれている。昭和10年、18年
頃には現星泳会長で元衆議院議
員、橋崎弥之助先輩を始め、
「正木、栗原、岸本、橋口、水
町他」諸先輩が活躍されている。
橋崎先輩が地元大濠プールで開
催された日米対抗試合の日本代
表の一員であった事は意外に知
られていない事実である。
戦後昭和30年代になるとプー
ルも荒廃したが、昭和41年頃に
現在の新プールが完成し、プー
ル開きには先の「葉室大先輩」
を始め多数の星泳会OBが集う
中、修猷水泳部の新しい時代を
迎える事となる。
そして昭和55年当時に活躍し
た国代君がみごと全国大会10
0m自由形で優勝するに至った
のである。スイミングクラブに
所属する選手が名を連ねる中に
於いて、仲間と共に現プールに
て練習を重ねた末に得た記録は
見事なものであった。今夏も
「現役合宿見舞い」の名の下に
多数のOBがプールに集り、現
役約20名の練習をながめつつ、
自らの現役時代の思い出に姿を
重ね、その夜は遅くまで「我が
青春時代」を深く語りあったの
は言うまでもない。来年70周年
のふしめを迎えるにあたり、記
念総会等の計画も予定されてい
る。「星泳会」事務局西村正美
(昭和43年卒)

お知らせ

東京修猷会'98総会

1998.6.12(金) 18:00~

大手町経団連会館(出口A1・日経ホール隣)

幹事は
しゃあない会
(S47卒)

テーマ
「修猷今物語」

決定

三月 三井 信雄
(昭和25年卒)
セガソフト会長

◆情報通信技術の現在と将来

——ソフト産業への期待

コンピュータの仕事は長くやっていますと、現在のようにコンピュータが社会的に広く使われるようになったのは夢のような気がします。

70年代の後半にパソコンが出現し、80年代になってコンピュータの使い方に革命的な時代を迎えました。インターネットで瞬時に世界中とつながることができるようになり、対話できることになったのもその一例でしょう。

ソフトもいろいろあつて、ビジネスの世界から、発音もしてくれる英辞書、「たまごっち」の原形のようなDNAの組み替えをシミュレートするゲームソフトまで出てきました。そのソフトでは映像と音声と同時に処理できるマルチメディアの技術が常識になっています。しかし、このように発達したソフト産業の中で、残念なことに日本は大変な遅れをとっているのが現状です。

一つには日本人はものごとや、自分の立場をはっきりさせない性格で、その上、明確性を欠く表現が多く使われる日本語の構造が、ソフト作成上のハンデになっているのかもしれない。しかし私は、ビル・ゲイツが世界経済のフォーラムで日本のベンチャービジネスの遅れを指摘したように、産業を育てる仕組みに問題があると思います。

知恵のある人が、お金をもらって、これを元にベンチャー・ビジネスを成功するというの

は、素晴らしいことですが、現実には容易なことではありません。アメリカでは、これを支援するため、お金を出すが、口も出すというベンチャー・キャピタリストが先駆者として存在しています。しかも事業を育てて成功すれば、アイデアを事業化した人も、これを支援したキャピタリストもミリオネアになる仕組みが出来ているのです。

日本でもこのような新しい仕組みを産業界に定着させ、大企業の外で若い人達にもっと自由

にやらせることが、ソフト産業を大きく伸ばすこと、業界に活力を入れることになるのではないのでしょうか。

’97二木会から
講演抜粋

にやらせることが、ソフト産業を大きく伸ばすこと、業界に活力を入れることになるのではないのでしょうか。



七月 山崎 拓
(昭和30年卒)
衆議院議員

◆21世紀への進路

私達は、21世紀においても我が国が元氣な活力国家であることを願っています。そのためには今から手を打ってなければ取り返しのつかないことになり、政治の責任で難局を打開したいと思っています。その難局の要因として、少子高齢化・産業の空洞化・財政の危機の三点が考えられています。これから21世紀の間に何か手を打とうと橋本政権は六大構造改革を掲げて局

歌三昧、30年

——シャンソンを歌う——

歌を仕事として何年経つだろうか。学生時代「銀巴里」の前歌をやっていた。スケジュール表に名前が出ないし勿論ギャラもなかった。そんな時代もいれど約30年になる。そして殆ど毎日歌ってきた。歌う事も仕事となれば厭な事も沢山ある。でもそれを乗り越えれば歌があつた。歌う場所が路上でもカーネギー・ホールでも、聴衆がひとりでも1万人でも、1曲歌うのも30曲歌うのも別に変わりはない。聞いてくれる人の心に仄かな灯りが点るように歌うだけだ。お前のあの歌が聞きたいとの声に励まされ、仲間がいて、家族があつて曲なりにも好きな事で生きてこられた。息子も大学を卒業し4月から社会人となる。今年は節目の年となりそうだ。



現在、月曜・金曜日は銀座のシャンソニエ・鳩ぼっぼ(3574-1810)土曜日は新宿の「シャンソニエQuai(3341-1814)」で歌っています。共に日・祭日は休みです。鳩ぼっぼのメンバー10人で吹込んだCDが銀座山野楽器で発売中です。どうぞよろしく願います。

世古潤一(昭和37年卒)

同窓生の店

東京・成城
フランス菓子の店「シェソア」

シェソア主人 富田幸敬(昭45年卒)

食べ物と与える本物の飲みを、その場を作り、たいと願って、シェソアは16年前に東京・成城に誕生しました。以来、フランス料理・菓子と、教室・講習会の実施、店や企業の商品開発、メニュー開発、技術指導を行ってきました。それらの経験を生かして、5年前に「菓子工房シェソア」を併設しました。成城の住宅街の奥にある、小さな洋菓子店です。シェソアは「お食生活の「いのち」を、シェソアは「お菓子工房シェソア」も併設



☎03(3484)1975

いしき」を最優先します。私達の身体はまぎれもなく、食べるものによって作られています。が、効率優先の為にともすれば食物のいのちを殺すあやまちをおかしてしまっています。シェソアは食物のいのちを活かすこととで初めて、それを口にすることとができるのだと

『ヒトラー暗殺計画と抵抗運動』

山下公子

(昭45年卒・富山国際大助教授)

とりたててドイツ史に興味がなくとも、ナチズムとかヒトラーという言葉を聞いたことのない人は、まずいまの第二次世界大戦を描いた映画や小説に親しんだ人なら、フランスのレジスタンスやイタリアのバルチザンなどの、対独、あるいは反ファシズム抵抗運動の地下組織の存在を知っているだろう。

しかし、ナチの本拠地ドイツが必ずしもナチ一色ではなかったこと。ヒトラーを排除しよう、ナチを抑えようとする人たちは、ヒトラーの政權掌握時から存在し、幾度かヒトラーの暗殺やクーデターの計画が立てられたこと。それらの計画実行に命を賭したドイツ人がいたこと。それは、一般には殆ど知られていない。

日独は第二次世界大戦を同じ側で戦ったと、何となく親しみをもち、ナチズムに熱狂し、多くのユダヤ人を殺した過去を持つ国だと、何となく胡散臭く思う。日本人が一般にドイツに抱くイメージの裏には、こんな思いがあるような気がする。しかし、もしそうだとすれば、それは片手落ちの歪んだイメージである。そもそも1930年4月刊

自著を語る



二木ゴルフ大会報告

二木会の運動部活動として老若男女だれでも参加できる同窓会ゴルフの企画が持ち上がったのが昨年末のことでした。総会・二木会の担当学年として私たち四六六年卒が初代幹事を務めることになり春の第一回開催に向け準備をすすめてきました。

はたして人数が集まるかどうか心配していましたが春・秋の大会とも40名を越す館友のご参加を頂き大盛況でした。毎回大活躍の有吉前会長や秋の大会で優勝された野上会長はじめ二十年代卒業の大先輩方の活躍が目立っていました。女性や若い館友の参加者が増えることより一層楽しい会になると思っています。



同窓会ゴルフの醍醐味は日頃話す機会の少ない先輩・後輩と一緒にプレーをしなが交流を深めることにあります。またゴルフは長く続けることが出来るスポーツであり健康を維持できれば有吉前会長のように80才を越えられても元気でプレーを楽しんでおられます。プレー後の懇親会は賞品もたくさん用意され和気あいあいの雰囲気で大変楽しい会になっています。

現在、既に会員登録されている方は、115名で(ハンディ取得者68名)今後の大会の案内は登録者に発送します。ゴルフに興味がある方は同窓会事務局まで是非ご連絡ください。逐一名簿に登録致します。

東京の修猷関係のゴルフ会としては他に安川大五郎先輩以来の歴史を誇る東京修猷ゴルフ会や究極のゴルフ道を追及する修猷どんたくゴルフ会などがありますのでゴルフの好きな方はどしどしご参加の上、グリーン上で館友との友好を深めてください。

(昭46年卒・鹿兒島正信)

精神科臨床の中で考えること

精神科医です、と自己紹介すると、さまざまな質問を受ける。「鉄格子の中で働くんですか。」「自分もおかしくなりませんか」等と聞かれると、精神科がまだ一般には怖い所と思われることを実感する。

また一方で、テレビドラマ等では、個性、若さ、女性性等を自在に駆使してどのような悩みも解決してくれるかっこいい精神科医が最近よく登場するらしい。(忙しすぎて私自身は余りテレビが見られないのが残念だ。)しかし実際の私たちの仕

西園マーハ文
(昭和54年卒)



事はというと、それほど怖くもかっこよくもなく、きわめて地道なものである。

精神科とはいっても医学の一分野である以上、診察して、診断して、治療をして、という医療の基本的な姿勢は、他の科と何ら変わることはない。

しかし、私たちの治療の対象は、目に見える腫瘍や機械で測れる血圧などではなく、患者さんの主観的体験なので、そこにはやはり他の科とは違う部分がある。患者さんが医師を信頼して話を下さらない限り、診断もつかない。患者さんが、どういう医師を信頼に値すると判断なさるかは種々の要素があるだろうが、専門技術に加えて、やはり年齢、性別、人間性といったファクターが入ってくるのがおもしろい。

私が女性であるせいか、私は女性の患者さんが多い。多過ぎてほとんどパンク寸前である。精神分業病、躁鬱病、神経症、摂食障害(拒食、過食)と病名は多岐にわたる。「こんなこと男の先生に話しても通じないし……」と、結婚できるかどうかの心配(分裂病の患者さんや、食事の支度が嫌になつてしまったこと(鬱病の患者さん)や、体重が1キロ増えたから死にたくなったこと(摂食障害の患者さん)等についてお話しされる患者さんを前にすると、いろいろ考えさせられる。

このような訴えに対応するのが、性別にかかわらず精神科医の役割なので、「男の先生はだめ」ということはないのだが、確かに、患者さんが、男の先生には話にくい話題があるのも否定はできない。

料理をしたこともなさそうな男の先生に「億劫で献立が思い

学年だより

卒業四十周年記念 同窓会

東京三三会幹事 国分英臣

昭和32年卒業の三三会40周年記念同窓会は、第一部で平成9年5月31日、記念式典、祝賀会を行い、第二部で同年7月5日から4泊6日のハワイ旅行という企画でした。

第一部は恩師尾嶋、小柳、永島、北島、釜瀬各先生、三三会同期の船津館長他120名の参加のもと母校育英堂記念館で、母校への記念品贈呈を始めとする記念式典・講演・写真撮影が行われた。終了後取り壊しが始まる懐かしい学び舎を見学し別れを惜しんだ。

その後会場を博多全日空ホテルに移し祝宴に入った。卒業以



来の顔触れもあり、時間が経つのも忘れ、思い出話に話が弾み、余興も楽しんだ。

館歌、彼の群小の斉唱のあと万才三唱で開きとなり、二次会、三次会のためネオン灯の中州へ繰り出した。

翌6月1日は希望者による福岡近郊マイカーツアーで一日を楽しんだ。

第二部は福岡、大阪、東京を出発した総員75名(内夫人が25名)はホノルル空港で合流し、ローカル便でハワイ島へ移動し、ヒルトンハワイアンビレッジホテルに落ち着いた。夕刻は太平洋に面したブルーサイドでサンセットを眺めながらパーティーを行った。

遠いハワイの地で博多弁をしゃべりまくる館歌で締め括った。

2日目はゴルフ(第百回三三会ゴルフ大会)とハワイ島観光に充てた。3日目にホノルルのロイヤルハワイアンホテルに宿を移した。4日目の夕刻はワイキキの海辺に続くホテルの中庭で、ハワイアンバンドをバックに歌謡大会で盛り上がり、今日は止めようといないが

'97総会報告

河野 浩

平成9年6月13日(金) 18時から大手町の経団連会館にて「平成9年度東京修猷会総会」が開催されました。

私たちが昭和46年「よからう会」のメンバーは今回の総会のテーマとして「21世紀への提言」としてアジアの中の福岡を採り上げました。

会の構成を三部に分け、第一部 総会
第二部 講演「アジアの街のあり方について」講師・東大工学部教授 西村 幸夫氏(昭和46卒)
第三部 懇親会

という形式にしました。私達といましては講演の時間が30分強と短かったが、私達の気持ちが伝わるかどうか不安でしたが、その後数多くの方

修猷新聞50周年

平成9年5月修猷新聞は創刊50周年を迎え、同日(土)に福岡市中央区天神の福岡国際ホールにおいて、50周年の記念祝賀会を開催いたしました。当日は館長、歴代顧問の先生(館長も顧問をされていた)や現役部員を含め総勢80余名の出席を

たまり、地元テレビ局が取材に訪れるなど、大いに盛り上がりしました。

修猷新聞は昭和22年5月、戦後の混乱の中、西日本で第1号の学生新聞として発刊され、学生が自主編集する新聞として九州の高校新聞のリーダー的役割を果たしてきました。学生の目から見た鋭い世相批判や時代を反映した特集記事など、自主・独立の編集方針のもと、最新の267号(平成9年5月)まで



号を重ねてまいりました。しかし若者の政治離れ、活字離れが進む中、他の高校新聞と同様に低迷している時期もありましたが、昨年、新しいスタイルの「修猷新聞NEO」として生まれ変わりました。高校生に読まれる新聞をモットーに、写真多用したビジュアルな雑誌風、タウン誌風となり、斬新なスタイルへと変身しました。日本経済新聞などにも紹介され、CD-ROM(コンピュータで読む事が出来る)に収め発売いたしました。「日本で初めての高校新聞のCD-ROM」として、その歴史を残し、今後につなげていくつもりです。平成10年度の東京修猷会、および同窓会総会にて販売予定ですので、是非購入していただきたいと思

います。

最後に、平成9年度の東京修猷会総会に於て、次の執行部が野上新会長より任命されました。藤吉、長野両副会長他役員の方々の御指導の下、会の運営に当たっております。

幹事長 田代 信吾(35年卒)
副幹事長 由良 範泰(40年卒) 総務運営
棚町 精子(40年卒) 会報
広瀬 豊(43年卒) 総会
伊佐 裕(44年卒) 行事
白井 信雄(44年卒) 会計
等 健次(45年卒) 二木会
本田由紀子(45年卒) 会計
出納 克彦(45年卒) 会報
西沢 逸実(46年卒) 二木会
野美山光博(47年卒) 総会

今年度から従来の総会の開催、二木会の運営、会報の発行の三大活動に加え、アートの会、ゴルフ大会の開催を始めましたが、会員の皆様の応援も頂きまして盛会となりましたので引き続き計画して行く所存です。尚、会の開催のお知らせはタイミングもありまして、総会、二木会の会場に於て、又は年会費納入の方へのお知らせで行っておりますので御了承下さい。

次に二木会の開催につきましては、昨年7月10日の二木会を以て、第450回を迎えた訳で、我々の東京修猷会が誇れる名物行事となりました。船津館長から現役の生徒諸君にお話して頂いております。残念ですが記録が全部揃っておりませんので、自分達が担当された時の会合の場所、講師名等お持ちでしたら事務局までご連絡下さい。(本号別刷参照)

御承知の通り、会の運営の一部を(株)フソウキャリアサービスに委託しておりますが、同社は単に事務を取って下さっているだけでなく、就きましては、会の運営に関する提言、助言、クレーム等は右に紹介の執行部の各担当が当っておりますので、二木会等の会場で直接頂き度く、フソウキャリアへの会員からの直接のコンタクトは御遠慮下さい。

求む! 東京修猷会の名簿管理の事務をして下さる方(2名程度)を求めています。応じていただける方は、幹事長田代(TEL03-5276-5123、FAX03-5276-5276)又は副幹事長由良(TEL03-5381-4431、FAX03-5381-4431)宛て2月10日までにご連絡下さい。

仕事・パソコン入力・出力、郵便の受領・発送その他(平成10年4月から開始)
資格・パソコン(ワープロ・表計算程度)ができる人。年齢性別不問、但し東京修猷会会員に限る。
勤務時間…月2回で1回4時間 報酬…交通費・昼食費及び若干の謝礼

事務局便り

平成9年度の東京修猷会総会に於て、次の執行部が野上新会長より任命されました。藤吉、長野両副会長他役員の方々の御指導の下、会の運営に当たっております。

幹事長 田代 信吾(35年卒)
副幹事長 由良 範泰(40年卒) 総務運営
棚町 精子(40年卒) 会報
広瀬 豊(43年卒) 総会
伊佐 裕(44年卒) 行事
白井 信雄(44年卒) 会計
等 健次(45年卒) 二木会
本田由紀子(45年卒) 会計
出納 克彦(45年卒) 会報
西沢 逸実(46年卒) 二木会
野美山光博(47年卒) 総会

今年度から従来の総会の開催、二木会の運営、会報の発行の三大活動に加え、アートの会、ゴルフ大会の開催を始めましたが、会員の皆様の応援も頂きまして盛会となりましたので引き続き計画して行く所存です。尚、会の開催のお知らせはタイミングもありまして、総会、二木会の会場に於て、又は年会費納入の方へのお知らせで行っておりますので御了承下さい。

次に二木会の開催につきましては、昨年7月10日の二木会を以て、第450回を迎えた訳で、我々の東京修猷会が誇れる名物行事となりました。船津館長から現役の生徒諸君にお話して頂いております。残念ですが記録が全部揃っておりませんので、自分達が担当された時の会合の場所、講師名等お持ちでしたら事務局までご連絡下さい。(本号別刷参照)

御承知の通り、会の運営の一部を(株)フソウキャリアサービスに委託しておりますが、同社は単に事務を取って下さっているだけでなく、就きましては、会の運営に関する提言、助言、クレーム等は右に紹介の執行部の各担当が当っておりますので、二木会等の会場で直接頂き度く、フソウキャリアへの会員からの直接のコンタクトは御遠慮下さい。

求む! 東京修猷会の名簿管理の事務をして下さる方(2名程度)を求めています。応じていただける方は、幹事長田代(TEL03-5276-5123、FAX03-5276-5276)又は副幹事長由良(TEL03-5381-4431、FAX03-5381-4431)宛て2月10日までにご連絡下さい。

仕事・パソコン入力・出力、郵便の受領・発送その他(平成10年4月から開始)
資格・パソコン(ワープロ・表計算程度)ができる人。年齢性別不問、但し東京修猷会会員に限る。
勤務時間…月2回で1回4時間 報酬…交通費・昼食費及び若干の謝礼

求む! 東京修猷会の名簿管理の事務をして下さる方(2名程度)を求めています。応じていただける方は、幹事長田代(TEL03-5276-5123、FAX03-5276-5276)又は副幹事長由良(TEL03-5381-4431、FAX03-5381-4431)宛て2月10日までにご連絡下さい。

仕事・パソコン入力・出力、郵便の受領・発送その他(平成10年4月から開始)
資格・パソコン(ワープロ・表計算程度)ができる人。年齢性別不問、但し東京修猷会会員に限る。
勤務時間…月2回で1回4時間 報酬…交通費・昼食費及び若干の謝礼

二木会記録

回	号年月	講 師	卒年	経 歴	演 題	場 所	回	号年月	講 師	卒年	経 歴	演 題	場 所
第1回	S 27 04					日本工業倶楽部	第304回	S 57 10	深田 祐介		作家・日本航空勤務、直木賞受賞	ビジネスマン	◇
							第305回	S 57 11	洲上 貴之	S26	世界連邦建設同盟理事長	幕末より明治維新	◇
第33回	S 32 10					丸ビル精養軒	第306回	S 57 12	松尾 修吾	S31	エピックソニー 専務取締役	レコード界裏話	◇
							第307回	S 58 01	福川 誠	S31	大洋球団 投手コーチ	野球と蝶	◇
	S 52	檜崎 弥之助			社会党を去る		第308回	S 58 02	福井 仁志	S31	九州大学 医学部脳外科助教授	脳外科手術	◇
	S 52	妹尾 親尚			経済の動向		第309回	S 58 03	柴田 悟	S31	団地サービス 企画室次長	サウジアラビア	◇
	S 52	小山田 隆			文化外交を語る		第310回	S 58 04	中川 勝弘	S35	通産省大臣官房 広報課長	最近の日米関係	◇
	S 52	竹田 五郎			日本の空の防衛の現状		第311回	S 58 05	佐田 正樹	S33	朝日新聞 政治部記者	現在の政局	◇
							第312回	S 58 07	藤本 達也	S32	日本マーケティングセンター経営コンサルタント	流通産業のゆくえ	◇
第263回	S 53 07	三井 信雄	S25		コンピュータと社会	レストラン富士	第313回	S 58 09	小山 博	S30	三井物産 産業機械部 部長代理	みたまのドイツ	◇
第264回	S 53 09	佐伯 康治	S27		中国の現状見たまま		第314回	S 58 10	副島 映一	S32	行政管理庁 行政管理局管理官	行政改革	◇
第265回	S 53 10	佐々木 康隆	S26		ソ連の表と裏		第315回	S 58 11	新川 雅子	S34	中東経済研究所 所員	中東あれこれ	◇
第266回	S 53 11	久水 宏之	S23	経済評論家	円高ドル安		第316回	S 58 12	一			忘年会	◇
第267回	S 53 12	一			忘年会		第317回	S 59 01	岡本 隆	S20	富士通 ホームエレクトロニクス開発室長	情報化時代	◇
第268回	S 54 01	真鍋 純哲			郷里福岡の水		第318回	S 59 02	山本 和子	S32	筑紫女学園短期大学教授	健康と強壮	◇
第269回	S 54 02	葉室 肇	S26		中東イランの政情		第319回	S 59 03	城戸 健	S20	N H K 技術本部番組施設部長	ニューメディア	◇
第270回	S 54 03	松本 重大			韓国事情		第320回	S 59 04	柴田 忠敏	S32	新日本製鉄 建材販売部 部長代理	ラグビー雑感	◇
第271回	S 54 05	山崎 拓	S30	衆議院議員・厚生政務次官	現在の政情		第321回	S 59 05	徳山 二郎	S12	野村マネジメントスクール 学長	経営雑感	◇
第272回	S 54 07						第322回	S 59 07	小波 雅亮	S21	赤坂病院長	中年からの健康管理	◇
第273回	S 54 09	田丸 博文	S29		世界の石油		第323回	S 59 09	青木 裕子	S44	N H K アナウンサー	小笠原の海亀取材	◇
第274回	S 54 10	古藤 高良	S23		長寿と健康	航空会館・入江ヒロ	第324回	S 59 10	田口 広則	S33		ベンチャービジネス	◇
第275回	S 54 11	中川 八洋	S38		政治最先進国の日本	◇	第325回	S 59 11	松岡 靖光	S33	最高裁判所 調査官	最近の裁判事情	◇
第276回	S 54 12	一			忘年会	◇	第326回	S 59 12	一			忘年会	◇
第277回	S 55 01	長野 俣士	S29		国鉄よ何処へ	◇	第327回	S 60 01	広渡 勲	S34	(財)日本舞台芸術振興会	東西文化交流	◇
第278回	S 55 02	光安 愛友	S19		経済情勢	◇	第328回	S 60 02	田中 登喜雄	S9	マックスファクター 相談役	満州からアメリカ	◇
第279回	S 55 03	大隅 私雄	S26		日本人と宗教～	◇	第329回	S 60 03	山田 洋子	S38	上尾市立西中学校 教諭	思春期の心情	◇
第280回	S 55 04	矢幡 陽太郎	S17		受験戦争	◇	第330回	S 60 04	福田 純也	S27	川崎市立川崎病院 検査課部長	映画「人生八十・老医は語る」	◇
第281回	S 55 05	野見山 薫	S12	産経新聞社 広報部長	国際情勢	◇	第331回	S 60 05	荒谷 俊治	S23		「修猷讃歌」	◇
第282回	S 55 07	桑原 敬一	S15	労働事務次官・東京修猷会幹事長	1980年代の展望～	◇	第332回	S 60 07	西嶋 勝彦	S34	弁護士	日本の裁判	◇
第283回	S 55 09	竹田 五郎	S14	統幕議長	日本防衛	◇	第333回	S 60 09	ハロラン芙美子	S37		ワシントンから	◇
第284回	S 55 10	久保田 成昭	S25	新日本証券 証券投資コンサルタント	日本証券市場	◇	第334回	S 60 10	川浪 義人	S25		テレビＣＦ演出事情	◇
第285回	S 55 11	安河内 健吉郎	S22	石油公団石油開発センター 副所長	石油開発と備蓄	◇	第335回	S 60 11	伊藤 正孝	S30	朝日ジャーナル 編集委員	アフリカ・キャンペーン	◇
第286回	S 55 12	一			忘年会	◇	第336回	S 60 12	一			忘年会	◇
第287回	S 56 01	柴垣 和夫	S27	東大社会科学研究所教授	日本経済	◇	第337回	S 61 01	山内 豊徳	S30	厚生省 審議官	厚生行政	◇
第288回	S 56 02	久保田 勇夫	S36	大蔵省国際金融局短期資金課長補佐	国際金融の現状	◇	第338回	S 61 02	野見山 薫	S22	(社)日本通信販売協会 常務理事	通信販売	◇
第289回	S 56 03	桑木 道生	S12	日本ビデオ映画製作所 代表取締役		◇	第339回	S 61 03	寺田 竹雄	S15	(社)二科会常務理事・国際美術連盟名誉会長	美について	◇
第290回	S 56 04	山崎 拓	S30	衆議院議員・防衛政務次官	日本の防衛	◇	第340回	S 61 04	山田 彦弥	S26	週刊新潮 編集長	週刊誌あれこれ	◇
第291回	S 56 05	宗吉 郁夫	S28	三井石油化学勤務	イランでの工場作り	◇	第341回	S 61 05	永川 幸樹		ドキュメント作家	五島昇・堤義明	◇
第292回	S 56 07	川口 淳美	S30	ブリジストンタイヤ海外営業第二部勤務	インドネシアと日本	◇	第342回	S 61 08	新島 一紀	S34	結婚情報サービス会社ツヴァイ 代表取締役	結婚	神田学士会館
第293回	S 56 09	友池 一寛	S25	福岡市民生局長	福岡市の近況	◇	第343回	S 61 09	竹村 茂昭	S2	修猷館同窓会 副会長	修猷館の移転構想	◇
第294回	S 56 10	広幸 信義	S28	三菱化成工業石炭液化室部長	新エネルギー開発	◇			大石 秀雄	S18	福岡市 助役		◇
第295回	S 56 11	高岩 淡	S23	東映常務・京都撮影所長	映画あれこれ	◇	第344回	S 61 10	園部 裕	S26	自動車ジャーナリスト	昨今の世界車事情	◇
第296回	S 56 12	一			忘年会	◇	第345回	S 61 11	古藤 高良	S23		現代養生訓	◇
第297回	S 57 01	辻 英雄	S12	衆議院議員・外務政務次官	昨今世界情勢	◇	第346回	S 61 12	一			忘年会	◇
第298回	S 57 02	福井 慶一	S19	日本大学第二中・高等学校教諭	中・高校生の進路決定	◇	第347回	S 62 01	向野 元生	T9	東方科学技術協力会 会長	私の大陸体験	◇
第299回	S 57 03	神田 紅	S46		講談「真田幸村大阪入城」	◇	第348回	S 62 02	長野 俣士	S29	日本国有鉄道 共済事務局長	国鉄はどうなるか	◇
第300回	S 57 04	伊藤 正孝	S30	朝日新聞外信部記者～当時カイロ特派員	アラブ民族主義	◇	第349回	S 62 03	信国 恵子	S35	ファミリーセラピスト	構造的家族療法	◇
第301回	S 57 05	帆足 興次	S31	(財)工業開発研究所 企画研究部長	原子力開発	◇	第350回	S 62 04	大城 金夫	S15	東京湾横断道路(株) 副社長	東京湾横断道路	◇
第302回	S 57 07	箱島 信一	S31	朝日新聞 経済部次長	サミット	◇	第351回	S 62 05	野上 三男	S20	三井信託銀行 専務取締役	最近の経済トピックス	神田学士会館
第303回	S 57 09	田代 和男	S23	太陽神戸銀行 調査部次長	日本は一流国か	航空会館・入江ヒロ	第352回	S 62 07	井島 宏	S34	筑波大学・医学博士	心臓血管の老化	◇

回	号年月	講 師	卒年	経 歴	演 題	場所	回	号年月	講 師	卒年	経 歴	演 題	場所
第353回	S 62 09	山崎 拓	S30	衆議院議員	現下の政局	◇	第406回	H 4 12	—	—	—	忘年会	
第354回	S 62 10	近藤 重克	S40	防衛庁 防衛研究所第2研究部第1研究室長	日本の防衛	◇	第407回	H 5 01	鳥巢 元太	S41	アルスデザイン	建築設計	◇
第355回	S 62 11	久水 宏之	S23	経済評論家	これからの経済	◇	第408回	H 5 02	井尻 秀憲	S45	筑波大学 教授	米国の政権交代	◆
第356回	S 62 12	—	—	—	忘年会	◇	第409回	H 5 03	池田 敬子	—	日本体育大学 教授	オリンピック	◇
第357回	S 63 01	大島 隆夫	S13	元大蔵省・税理士	税制改正	◇	第410回	H 5 04	山崎 拓	S30	衆議院議員	転機の日本	◇
第358回	S 63 02	古川 公毅	S36	東京都港湾局計画部副参事	ウォーターフロント	◇	第411回	H 5 05	二見 茂	S41	安川電機 筑波研究所	ナノテクノロジー	◇
第359回	S 63 03	笠 耐	S27	上智大学教授	科学教育	◇	第412回	H 5 07	宮本 雄二	S40	外務省 前中国課長	安全保障	◇
第360回	S 63 04	福田 純也	S27	川崎市立川崎病院	病気に顕微鏡	◇	第413回	H 5 09	土肥 隆一	S33	衆議院議員	連立政権	◆
第361回	S 63 05	久保田 勇夫	S36	大蔵省 参事官(副財務官)	G 7	◇	第414回	H 5 10	吉戒 修一	S42	法務省 民事局参事	平成5年商法改正	◇
第362回	S 63 07	興膳 宏	S30	京都大学 文学部教授	パリの中国人	◇	第415回	H 5 11	横崎 弥之助	S13	衆議院議員	細川連立内閣	◇
第363回	S 63 09	広松 猛	S37	竹中工務店 研究所	東京ドーム	◇	第416回	H 5 12	—	—	—	忘年会	
第364回	S 63 10	佐藤 守	S33	航空自衛隊 航空幕僚監部人事教育部教育課長	国際情勢の見方	◇	第417回	H 6 01	渡辺 俊介	S38	日本経済新聞社 論説委員	高齢化社会と年金	◇
第365回	S 63 11	藤吉 敏生	S26	日刊工業新聞社 社長	新聞社からみた経済動向	◇	第418回	H 6 02	植木 とみ子	S43	福岡市 市民局女性部長	女性の美しさ	◇
第366回	S 63 12	—	—	—	—	◇	第419回	H 6 03	山崎 広太郎	S35	衆議院議員	細川連立政権	◇
第367回	H 1 01	柴崎 浩	S33	国立精神神経センター神経研究所 疾病研究四部長	ヒトの脳電位	◇	第420回	H 6 04	轟田 栄作	S44	グローバルコンサルティング・ネットワーク代表	環境問題	◇
第368回	H 1 02	高岩 和雄	S12	ITX(工学博士)総合労研インターナショナル	海外異文化適応性	◇	第421回	H 6 05	黄 順姫	—	筑波大学講師	修猷館同窓生	◇
第369回	H 1 03	伊藤 正孝	S30	朝日ジャーナル 編集長	リクルート疑惑	◇	第422回	H 6 07	古池 弘隆	S34	宇都宮大学 工学部教授	都市交通	◇
第370回	H 1 04	箱島 信一	S31	朝日新聞社 経済部部長	経済展望	◇	第423回	H 6 09	音成 正人	S43	NHK 大阪放送局Cプロデューサー	ドラマ	◇
第371回	H 1 05	田中 清士	S37	NHK社会部副部長・宮内庁記者クラブ 昭和の終わった日	—	◇	第424回	H 6 10	伊藤 哲朗	S42	警察庁 交通局交通規制課課長	アメリカの銃社会	◇
第372回	H 1 07	牛尾 恭輔	S37	国立がんセンター病院放射線診断部医長	進化の歴史と癌	◇	第425回	H 6 11	日高 九萬男	S36	航空自衛隊 幹部学校戦略教官室室長	国際貢献	◇
第373回	H 1 09	渡辺 俊介	S38	日本経済新聞社 論説委員	海部新政権	◇	第426回	H 6 12	—	—	—	忘年会	
第374回	H 1 10	平木 英人	S30	唐木神経内科クリニック 副院長	ストレス社会	◇	第427回	H 7 01	小川 洋	S43	通商産業省 鉄鋼業課長	P L 法	◇
第375回	H 1 11	原 恒樹	S38	日本興業銀行 国際業務部副部長	アメリカの企業買収	◇	第428回	H 7 02	広中 平祐	—	数理科学振興会 理事長	あいまいについて	◇
第376回	H 1 12	—	—	—	忘年会	ふくおか会館	第429回	H 7 03	土肥 隆一	S33	衆議院議員	霞が関	◇
第377回	H 2 01	中川 八洋	S38	筑波大学教授	ゴルバチョフ「新思考」	神田学生会館	第430回	H 7 04	瀬尾 和大	S38	東京工業大学 教授	阪神大震災	◇
第378回	H 2 02	深町 宏樹	S38	アジア経済研究所	外国人労働者問題	◇	第431回	H 7 05	有吉 新吾	S04	三井鉱山 相談役	私のアメリカ史	◆
第379回	H 2 03	伊藤 正孝	S30	朝日ジャーナル 編集長	総選挙	◇	第432回	H 7 07	鳥巢 建之助	T14	海軍戦史研究家	原爆の功罪	◇
第380回	H 2 04	ながお ひろし	S38	リフレッシュ研究所 所長	目標必達法	◇	第433回	H 7 09	中川 八洋	S38	筑波大学 教授	混迷の政治	◇
第381回	H 2 05	山崎 拓	S30	衆議院議員	政治課題	◇	第434回	H 7 10	小島 朋之	S37	慶應大学 総合政策学部教授	日中関係	◇
第382回	H 2 07	佐々木 康隆	S26	ソ連研究家	ソ連情勢	◇	第435回	H 7 11	原口 真智子	S45	作家	作者と作品	◇
第383回	H 2 09	洲上 貴之	S26	弁護士	アジア・太平洋	◇	—	H 7 12	—	—	—	忘年会	◇
第384回	H 2 10	山崎 養世	S52	大和証券 証券開発部	証券化ビジネス	◇	第436回	H 8 01	西高辻 信良	S47	太宰府天満宮 宮司	天満宮と私	◇
第385回	H 2 11	野原 宏	S38	前・三井造船労働中核委員長・現・三井造船経営企画部長	労働運動と企業戦略	◇	第437回	H 8 02	後藤 晃	S39	一橋大学経済学部 教授	日本経済の現状	◇
第386回	H 2 12	—	—	—	忘年会	ふくおか会館	第438回	H 8 03	藤吉 敏生	S26	日刊工業新聞社 代表取締役会長	戦後50年	◇
第387回	H 3 01	伴 拓郎	S34	日本興業銀行 調査部長	91年の経済金融動向	神田学生会館	第439回	H 8 04	高岩 淡	S23	東映株式会社 社長	映画づくり	◇
第388回	H 3 02	筑紫 勝磨	S40	大蔵省 国際金融局国際資本課長	わが国の直接投資	◇	第440回	H 8 05	広渡 勲	S34	日本舞踊芸術振興会	オペラファン	◇
第389回	H 3 03	横崎 弥之助	S13	衆議院議員	最近の政治情勢	◇	第441回	H 8 07	宮崎 暢俊	S35	熊本県小国町 町長	ライフスタイル	◇
第390回	H 3 04	田島 信元	S40	東京外国語大学 教授	現代日米親子関係	◇	第442回	H 8 09	楠田 喜宏	S27	安川電機株式会社	ロボット	◇
第391回	H 3 05	黒宮 時代	S41	トキヨアソシエーツ	E C 見たまま	◇	第443回	H 8 10	田所 愛子	—	S 4 4 年卒 田所一秀氏夫人	色彩学	◇
第392回	H 3 07	鳥巢 建之助	T14	海軍戦史研究家	米海軍最大の悲劇	◇	第444回	H 8 11	小柳 陽太郎	*	社団法人国民文化研究所副理事長(S27〜58修猷館教員)	教育と日本の将来	◇
第393回	H 3 09	伊藤 正孝	S30	朝日新聞 編集委員	湾岸戦争後	◇	—	H 8 12	—	—	—	忘年会	如水会館
第394回	H 3 10	藤島 まり	S40	公文式教室主催	学ぶ楽しみ	◇	第445回	H 9 01	稲川 誠	S31	横浜ベイスターズ スカウト	野球	神田学生会館
第395回	H 3 11	原田 義昭	(S38)	衆議院議員	自民党政権	◇	第446回	H 9 02	三井 信雄	S25	セガソフト 会長	情報・通信	◇
第396回	H 3 12	—	—	—	忘年会		第447回	H 9 03	鈴木 純 石川 透 荒木 尚志	S45 野村総合研究所 人事部長 S42 労働省大臣官房労働保険徴収課長 S53 東京大学法学部助教 労働法	21世紀の働き方 (パネルディスカッション)	◇	
第397回	H 4 01	河井 浩一	S41	パリバ投資顧問社長	92年の経済	◇	第448回	H 9 04	三嶋 隆夫	S38	フランス菓子「16区」	フランス菓子	◇
第398回	H 4 02	塚本 学	S19	国立歴史民族博物館教授	博物館	◇	第449回	H 9 05	清水 幸次	S35	吉本興業取締役役事業統括副部長	笑売	◇
第399回	H 4 03	中山 悠	S31	明治乳業 社長	酪農業	◇	第450回	H 9 07	山崎 拓	S30	衆議院議員	21世紀の日本	◇
第400回	H 4 04	細川 護熙	—	前熊本県知事	本当の豊かさ	◇	第451回	H 9 09	レンガ・バグダッド	—	モンゴル大使館一等書記官	モンゴルの心	◇
第401回	H 4 05	小南 憲二	S40	中央競馬会 調査役	競馬	◇	第452回	H 9 10	久留島守広	S43	通産省	環境問題	◇
第402回	H 4 07	小阪 修平	S41	評論家	現代思想の状況	◇	第453回	H 9 11	青木 裕子	S44	NHKチーフアナウンサー	福祉	◇
第403回	H 4 09	有吉 新吾	S04	三井鉱山 相談役	無題	神田学生会館							
第404回	H 4 10	桑原 敬一	S15	福岡市長	国際都市福岡	◇							
第405回	H 4 11	近藤 博彦	—	全農中央会 政策課長	農協の21世紀	◆							